

自治体と共に進む! GIGA時代における情報モラル教材と実践事例

「LINEみらい財団」について

より良い未来のデジタル社会を目指し、
子どもたちのデジタルリテラシー向上を果たすために

LINE みらい財団

LINE株式会社（現:LINEヤフー株式会社）は、2012年より青少年のインターネット利用環境の整備に取り組み、学校や企業、自治体、政府機関などと協力し合いながら、主に情報モラル教育活動を展開してまいりました。

「LINEみらい財団」は、これら一連の教育活動から得られた知見やノウハウを、**LINE個社のCSR活動に留まらず広く社会に還元し、より広域的・永続的に活動するため設立**されました。

- 名 称 一般財団法人LINEみらい財団
- 設 立 2019年12月20日
- 理事長 奥出 直人（慶應義塾大学名誉教授）



LINEの「情報モラル教育活動」

コミュニケーションの手段が多様化する中で

現代の子どもたちは、電話やメールよりもSNSを多く利用しているという実態があります。このような状況下で、安心・安全なコミュニケーションを楽しんでいただけるよう、教員、保護者、教育機関・行政機関と連携しながら、青少年の健全なインターネット利用の啓発活動を行っています。

①教材開発

②出前授業

③調査・研究

④教育機関と
の取組み

GIGAワークブックいけだ について

「GIGAワークブックいけだ」教材イメージ

教材紹介：池田市教育センターHP
情報モラル教育 – 情報モラル教材[GIGAワークブックいけだ] について –
<https://ikeda.schoolweb.ne.jp/swas/>

参考：
2023年10月06日
池田市HP
LINEみらい財団との連携により「GIGAワークブックいけだ」を作成
https://www.city.ikeda.osaka.jp/kosodate_kyoiku/gakkou/kyozai/17432.html

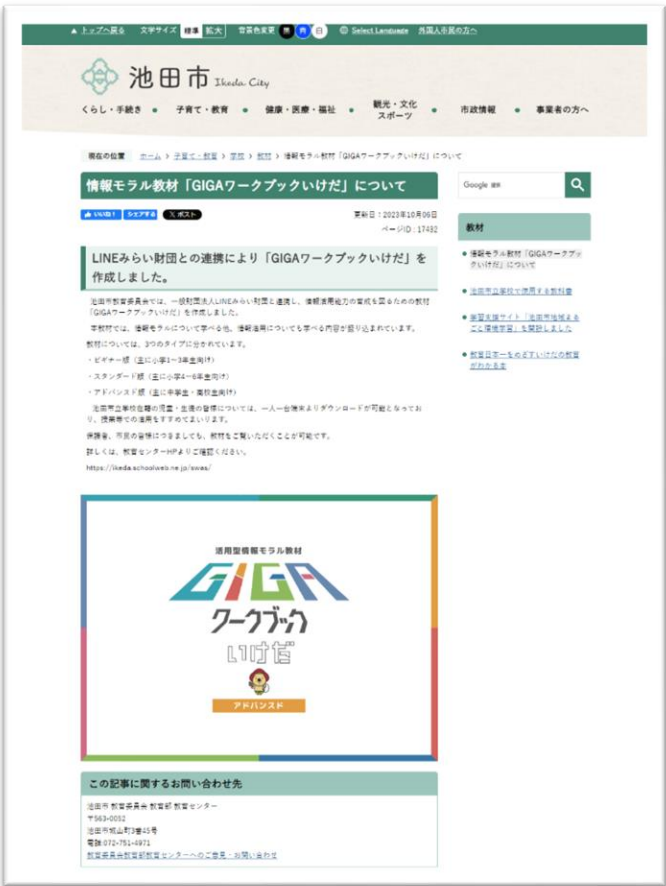


児童用教材

教材のご活用イメージ



教員用 活用の手引



2023年11月17日
教員向け研修
(オンライン) 実施

GIGAスクール時代における 新しい情報モラル教育のポイント

GIGAスクール時代における新しい情報モラル教育のポイント



<https://youtu.be/b5VMUcLG58Y>

学校で情報モラル教育を進めていくために

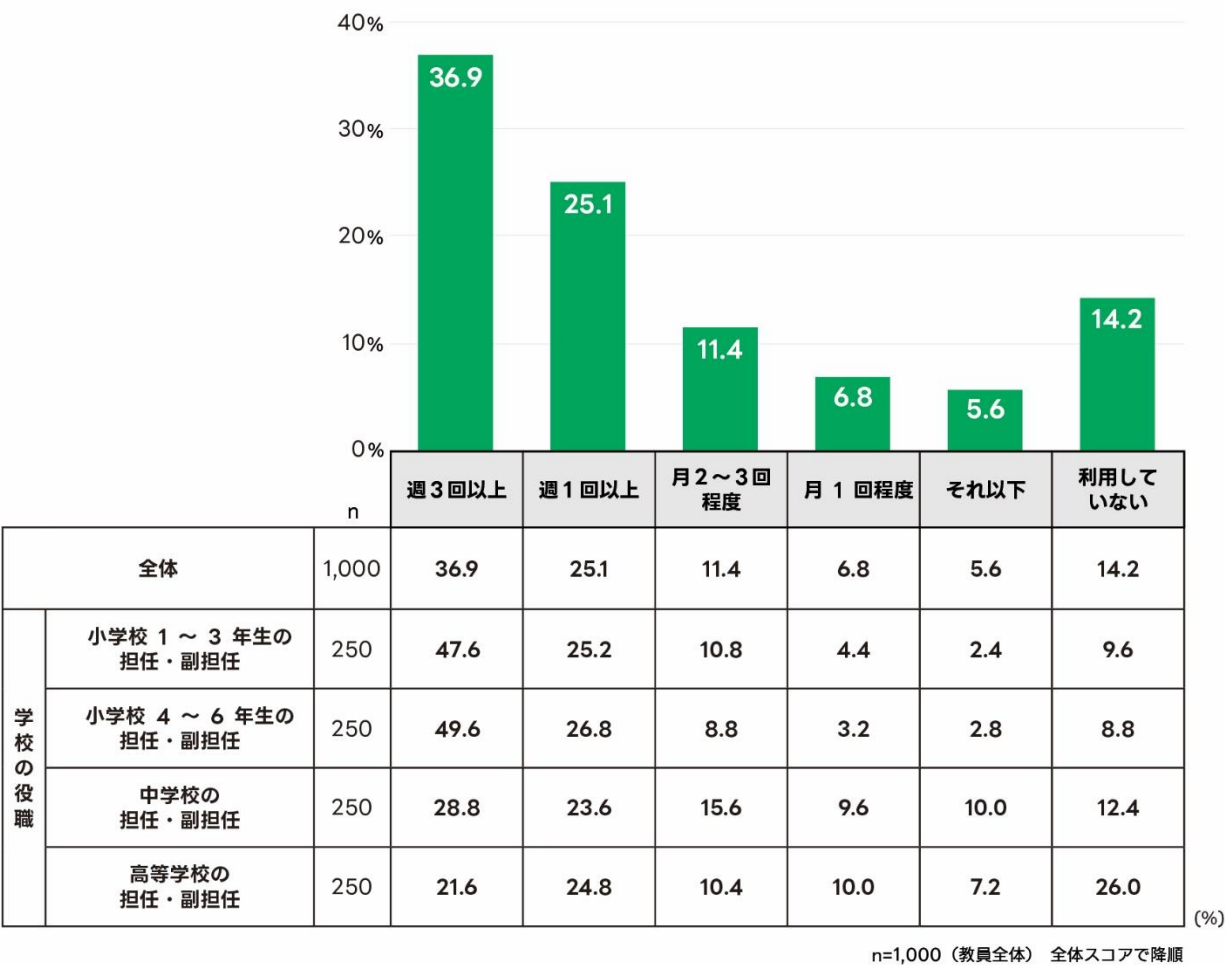
■ GIGAスクール端末の使用頻度

担任・副担任を務める教員に対し、
GIGAスクール端末をどのくらい授業で使っているか聞いたところ

「月1回程度」以上が約8割と、多くの学校で定期的に活用されている結果となりました。

また「週1回以上」、「週3回以上」をあわせた回答は全体で6割以上となっています。

設問：あなたは、GIGA スクール端末をどのくらい授業で使っていますか。(SA)



「知識」があれば、「行動」できるのか？

トラブルの整理

現在のネットに関するトラブルは、大きく以下のように分類することができます。

1 長時間利用



ゲームや動画、コミュニケーションにかかわる時間を使いすぎたり、「ながらスマホ」をする。



主に **A**

2 高額課金



たくさんのお金を使って、ゲームのアイテムなどを購入してしまう。



主に **A**

3 不適切サイトの閲覧



性的描写や暴力表現など青少年にふさわしくないサイトを閲覧する。



主に **B**

4 出会い



SNS で知らない人から会うことを求められたり、自分の画像を送ることを求められる。



主に **A** と **B**

5 著作権の侵害



無許可の映像や音楽のアップロードや、違法と知りながらの音楽や映像をダウンロードする。



主に **A** と **C**

6 不適切情報の発信



悪ふざけの写真やデマなどを SNS で発信する。



主に **C**

7 個人情報の投稿



SNS へのテキストや写真などの投稿から、個人を特定できる情報を流出させる。



主に **C**

8 悪口・いじり



グループトークでいじりや無視をしたり、短文の意味の取り違いによって誤解してしまう。



主に **C**

トラブルの整理と対策

6 不適切情報の発信



悪ふざけの写真やデマなどを SNS で発信する。



これまでの情報モラル教育の課題

ありがちな指導方法

トラブル事例を紹介して、
議論させる



あんなトラブルに
あってバカだなあ。
自分はいんなトラブルに
なんてあわないし。

映像教材を見せて、
よりよい使い方を考えさせる



自分と主人公は
関係ないし。
自分はよい使い方が
できてるし。

「事例ベースの指導」で、トラブルやリスクを
自分のこととして「自覚」できているのか？

トラブルの整理と対策

知識の有無が大きく
行動に影響を及ぼすもの

3 不適切サイトの閲覧



性的描写や暴力表現など青少年にふさわしくないサイトを閲覧する。

5 著作権の侵害



無許可の映像や音楽のアップロードや、違法と知りながらの音楽や映像をダウンロードする。

知識の有無があまり
行動に影響を及ぼさないもの

6 不適切情報の発信



悪ふざけの写真やデマなどを SNS で発信する。

7 個人情報の投稿



SNS へのテキストや写真などの投稿から、個人を特定できる情報を流出させる。

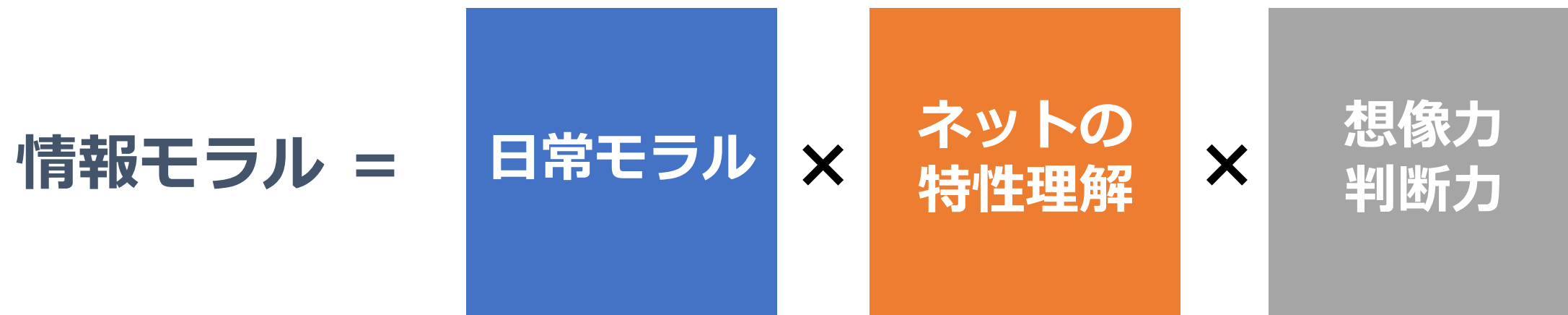
8 悪口・いじり



グループトークでいじりや無視をしたり、短文の意味の取り違いによって誤解してしまう。

「知識」を身につけるだけでトラブルを予防することは難しい

LINEが考える情報モラル教育のポイント



子どもたちの「自律」を育む

学校で情報モラル教育を進めていくために

組織的に情報モラル教育へ取り組むために

よくある課題

「情報モラル教育は担当教員がやってくれる？」



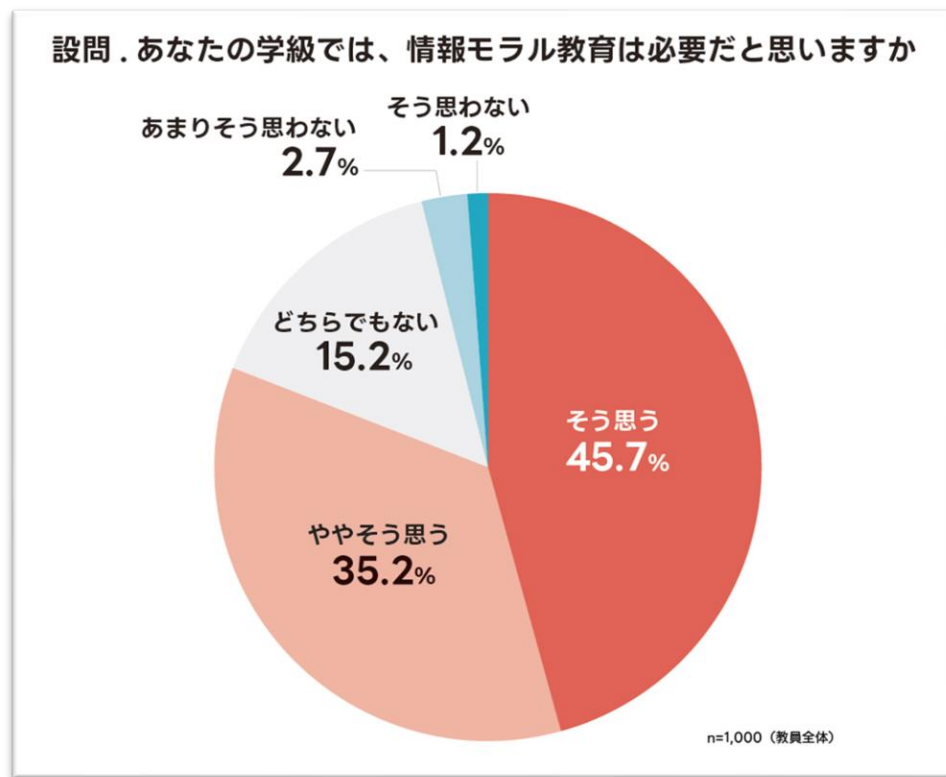
必要性はわかっているけど、学校全体で情報モラル教育に取り組めない

- － 情報モラル教育を継続的に行っていくためには、**学校全体で組織的に** 指導していくことが必要。
- － 児童生徒が **先生方の姿**から 情報モラルの「態度」を学ぶことにも。
- － 情報モラルを指導することで、**先生方の情報モラル教育** にも。

学校で情報モラル教育を進めていくために

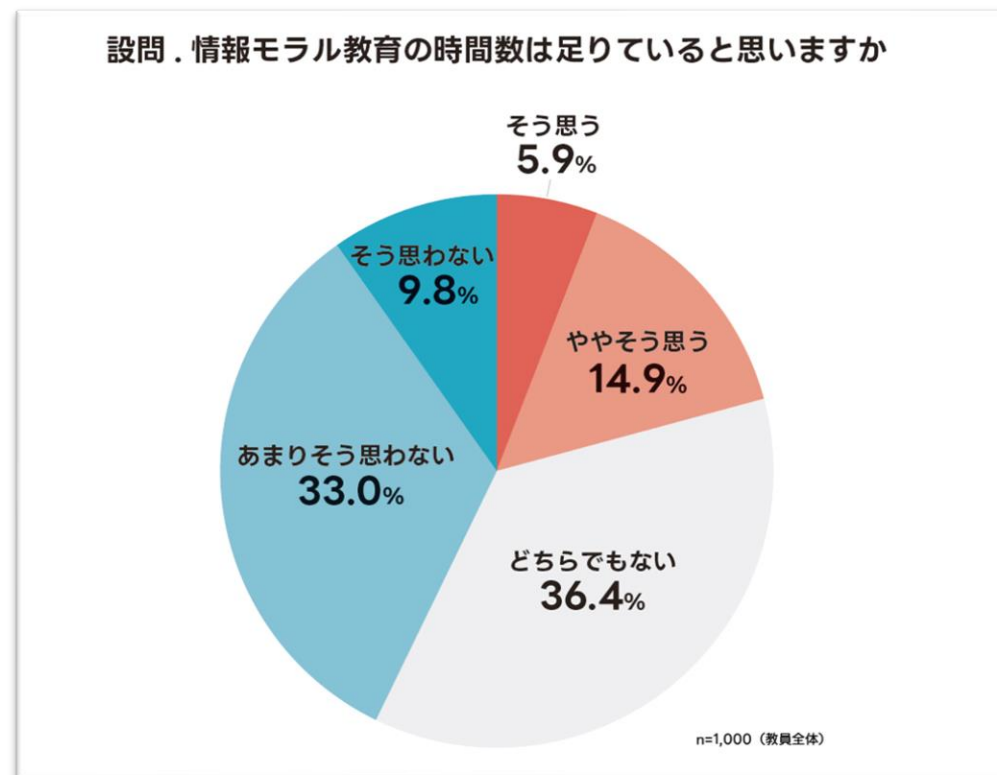
■情報モラル教育に対する意識

担当する学級において情報モラル教育は必要と思うか聞いたところ、「そう思う」「ややそう思う」という回答が全体で約8割となりました。



続いて、情報モラル教育の時間数は足りていると思うかという質問については、「そう思う」「ややそう思う」という回答が約2割、「そう思わない」「あまりそう思わない」が約4割でした。

多くの教員が情報モラル教育の実施が必要と考えている一方、実施時間が足りていないと感じる教員が比較的多いという結果になりました。



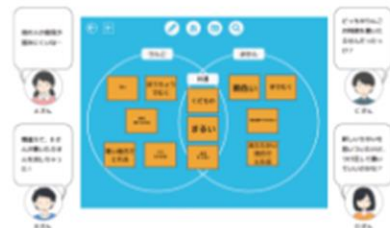
学校で情報モラル教育を進めていくために

ICTの活用場面 (8場面)



上手な共有方法を学ぼう

タブレットを使うと、いろいろな情報をすぐに共有することができます。
あなたは、グループで、「りんごの収穫」と「あまのり」をみんなに教え、共有することにしました。しかし、
Aさん、Bさん、Cさん、Dさんには、それぞれ違うことがあったようです。
上手に共有するために、あなたはどのようにアドバイスしますか。



活用スキル

相手に伝えるときには

次の4つの伝え方について、あなたが使われている順番に並べてください。



情報モラル

愛なコメントが寄せられたら

あなたのクラスメイトグループチャットに、「OOはバカ」という書き込みがありました。
あなたは、どのように対応しますか。



トラブル対応

あらためて 「情報モラル」 を確認すると・・・

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編より

情報モラルとは、「**情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度**」であり、具体的には、他者への影響を考え、人権、知的財産権など自他の権利を尊重し情報社会での行動に責任をもつことや、犯罪被害を含む危険の回避など情報を正しく安全に利用できること、コンピュータなどの情報機器の使用による健康との関わりを理解することなどである。

このため、情報発信による他人や社会への影響について考えさせる学習活動、ネットワーク上のルールやマナーを守ることの意味について考えさせる学習活動、情報には自他の権利があることを考えさせる学習活動、情報には誤ったものや危険なものがあることを考えさせる学習活動、健康を害するような行動について考えさせる学習活動などを通じて、生徒に情報モラルを確実に身に付けさせるようにすることが必要である。その際、情報の収集、判断、処理、発信など**情報を活用する各場面での情報モラルについて学習させることが重要である。**

あらためて「情報モラル」を確認すると・・・

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編より

また、情報技術やサービスの変化、生徒のインターネットの使い方の変化に伴い、学校や教師はその実態や影響に係る最新の情報の入手に努め、それに基づいた適切な指導に配慮することが必要である。併せて生徒の発達の段階に応じて、例えば、インターネット上に発信された情報は基本的には広く公開される可能性がある、どこかに記録が残り完全に消し去ることはできないといった、情報や情報技術の特性についての理解に基づく情報モラルを身に付けさせ、**将来の新たな機器やサービス、あるいは危険の出現にも適切に対応できるようにすることが重要である。**

さらに、情報モラルに関する指導は、道徳科や特別活動のみで実施するものではなく、**各教科等との連携や、さらに生徒指導との連携も図りながら実施することが重要である。**

**場当たりのトラブル対応だけでなく、
計画的に情報モラルを含む情報活用能力を育てる**